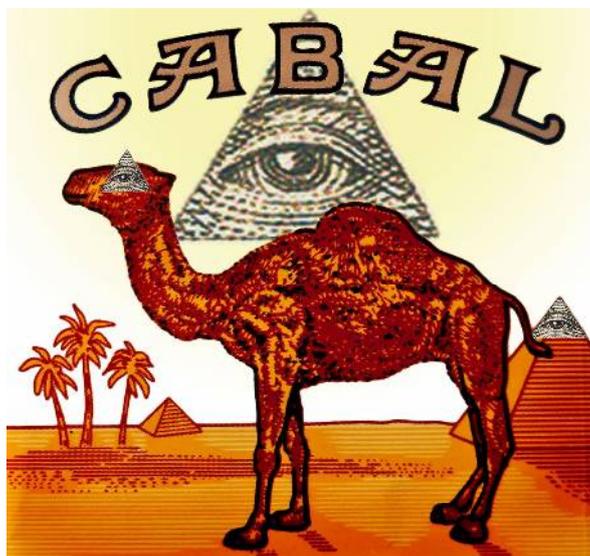


【解説】これはデイヴィド・ウィルコックの進行中の、膨大な調査研究の一部である。話題の中心は、メディアでは立ち消えになっている、マレーシア航空 370 便機の謎の失踪事件であるが、彼はこれを、歴史を踏まえた厳密な推理によって解き明かす。彼の理解では、これは幸い失敗に終わったが、「陰謀団」の最後で最大の陰謀であった。『ザ・シンクロニシティ・キー』（現在発売中）でもかなりのアメリカの暗黒部分が暴かれているが、この記事では、もっと生々しい、リークされた極秘文書の証拠写真などによって、我々を仰天させる。この翻訳は、この記事を最後までフォローできるかどうか保証できないが、とりあえず彼が第一部だと言っている部分を 4 つのファイルに分けて翻訳した。図版が多いこともあって、全部で 100 ページを超えている。

370 便機：「陰謀団」の背骨を折る最後のわら？（4の1）

David Wilcock

April 6, 2014



MH370 便機事件は、記録された歴史で最も破壊的なテロリスト攻撃になった可能性がある。このボーイング 777 機——あるいはそれに似たもの——は、地球上のトップ 53 カ国のリーダーを殺すために用いられた可能性があるのだろうか？

なぜ、宇宙的最高機密取り扱い許可をもつ 20 人の科学者が、370 便機に乗っていたのだろうか？ そして絶対に彼らを止めなければならないと考えた、ある別のグループがあったのだろうか？

370 便機の乗客の一人がうまくメッセージを送って、彼がインド洋の最大の米/英軍事基地の近くで、“牢獄船”に捕えられている——そして他の乗客はまだ生きている——と知らせたというは？

軍産共同企業、連邦準備銀行システム、主要な西洋諸国を動かしている秘密の権力者たち——つまり「陰謀団」あるいは「イルミナティ」——が、究極の世界的クーデタを試みたのかもしれない。有難いことに彼らは失敗した。

もし彼らの計画が成功していたら、それは我々の時代を定義づける物語になっていたであろう——そしてほとんど確実に世界戦争が始まっていただろう。

有難いことに、このへまな仕事をやったと考えられる、あの影の、捕まえにくい集団は、いま真の敗退の瀬戸際にある。

彼らを怖れず、証拠を客観的に調べるだけの勇気をもつならば、370 便機は「陰謀団」(the Cabal) の背骨を折る最後のわらになる可能性が十分にある。

悪漢は実在する——しかし英雄も実在する

読者はここに冷笑も、運命論も、絶望も見出さないだろう。これはいわゆる“恐怖ポルノ”ではない。そういったものはすでに沢山ある。

これは希望の物語である——我々が「点と点を結んで」てみると、史上最大の悪漢の敗北がいま目の前に見えてくる、という話である。

それは複雑に絡み合った話で、さまざまな驚くべきひねりや転回があるが、決して退屈な、つまらぬ話ではない。

この調査の大きさそのものと画像の数のために、これを少なくとも 2 部に分けざるを得なくなった。これはその第一部である。

読者は、そのような「陰謀団」が存在するという明白な、有無を言わさぬ証拠を見出すだけでなく、彼らを敗退させようと動いている、巨大な国際的な連盟についても知ることになるだろう。

これまでは、これらはすべて背後で起こっており、より大きな神秘がうごめいていることを示唆するある種の見出しがついていた。それはやがてすっかり変わるかもしれない。

真理が最終的に現れたとき、世界史の過去 300 年は、少なくとも、現在見えているようなものとは非常に異なった様相を、やがて見せるようになるかもしれない。そして我々は、今より遥かに幸福な世界をもつだろう。

“新世界秩序”の存在を信ずることが、新しい主流になった

確かに、全面的支配とコントロールの“新世界秩序”を創りだそうとする、権力に飢えた人々の陰謀団を想像することは、心安らかなものではありえない。

もしあなたが、それは「ネット上の少数のクレイジーな人々」に限られた「周縁的」信念にすぎないと思っているなら、考え直さねばならない。

ちょうど一年前、アメリカの有権者の 28%——共和党支持者の 38%を含めて——という驚くべき多くの人々が、電話による名の分らぬ質問者に、ある「陰謀団」の存在を信じていると答えた（リンク）。

詳しく言えば、彼らは「グローバルな将来計画をもつ秘密主義の権力エリートが、共謀して、ある権威主義的な世界政府、すなわち New World Order を通じて、究極的に世界を支配しようとしている」（リンク）という考えに、同意すると答えた。

Public Policy Polling is out with a new series of results from a survey it conducted on Americans' beliefs in various "conspiracy" theories, and some of the results are rather surprising.

For instance, PPP found that 28 percent of voters believe secretive power elite with a globalist agenda are conspiring to eventually rule the world through an authoritarian world government, or a New World Order. A plurality people who voted for Mitt Romney in the 2012 election (38 percent) believe in the New World Order theory, compared to 35 percent who don't.



flickr / Mark Turnaukas

これらの統計結果は、NSA（米安全保障局）の正体が露見する前の、幸福な無知が支配していた時のことだから、この数値は現在では、倍増しているものと十分に推定できる。

ここからわかることは明らかだ。2013年の国勢調査では、現在アメリカには3億1,600万ほどの人が住んでいる。

もしこのパーセンテージが有権者以外にも当てはまるとするなら、8,850万ほどのアメリカ人が、NSAの正体が明らかになる前に、「陰謀団」の存在を信じていた。

これは決して小さな集団ではない。8,850万のアメリカ人というのは「臨界的」集団である。

こうした信念がアメリカの外でも、いかに広まっているかを考えるなら、10億以上とは言わないにしても、少なくとも数億の人々が「秘密の権力エリート」の存在を信じていると考えられる。

更に多くの人々が、我々の最高の善を考えてくれる、より高い知性の存在を信じている

アメリカ人の92%が、ギャラップ世論調査に対し2011年の段階で、何らかの形での神を信じていると言っている。これは懐疑論者がよく言っていることに反し、圧倒的多数である（リンク）。

そのうち「8パーセント」は、他の誰でも自分と同じように考えているかのように言うのが非常にうまい——これは彼らが、ユーチューブやフェイスブックで痛烈なコメントをするときに現れると言っている。

この92%という大多数の中に、世界的な権力を求める「陰謀団」の存在を、彼らが現にもっている霊的信念に、うまく調和させることのできる人は果たしているのだろうか？



我々がこうした黒い恐ろしい計画について読み始めると、出口は全くないように思える。我々は、考えられぬ恐怖、不安、そして恐慌に襲われさえするであろう。

しかし「陰謀団」の存在を信ずる人々は、「陰謀団」の内部——例えば我々を監視するように雇われている人々——で信じている人たちより、はるかに多い。

すべてを考えれば、我々の方が、プレイしているガキ大将どもより、はるかに大きく頑強な勢力なのである。

私の好きな譬えの一つで言えば、もし 99 人が部屋に閉じ込められて飢えており、一人だけが山ほどの食糧の上に坐っているとしたら、遅かれ早かれ彼は引きずり下ろされる。

彼はあらゆる武器をもっているかもしれないが、人々が団結して彼に立ち向かうのは時間の問題である。

Sarah McLendon の悪名高い逸話

サラ・マクレンдонは、1992 年、「陰謀団」のある高位のメンバーから、大衆が実は、いかに強く、かつ怖れられているかという、めったに聞けない告白を引き出した。

サラはその頃、ホワイトハウスの記者団の大御所的存在だった。彼女はあらゆるホワイトハウスの記者会見に出席したが、話し上手で、大いに尊敬され、アイゼンハワー以来のあらゆる大統領をインタビューした。

彼女は無遠慮に質問する癖があって、その一つとして、アイゼンハワー大統領が額に青筋を立てたことがあった（リンク）。

この写真では、すでに名声を確立した彼女が、ジョン・F・ケネディ大統領にインタビューしている——



ある重要な会議でサラに会う

私は、2001年5月10日、ワシントンDCでVIPや議員団のために開かれた、「ディスクロージャー計画実行概要説明会」（リンク）の席で、彼女のすぐ後ろに坐った。

正直なところ、私には話しかける下心があった——なにしろ彼女は“レジェンド”だった。そして私は確かに、このような重大な会議で、彼女とすばらしい会話ができた。

これはまた、私にとって、政府/軍産業複合体のためにトップ・シークレットの計画の仕事をしてきた大勢のインサイダー・グループに、初めて出会えた機会でもあった。

私はネット上で、すでに5年も活動をしてきたために公的人物になっていて、この会議に来ていたすべてのインサイダーの大多数と、すでに接触していた。

この「ディスクロージャー計画」は、Steven Greer 博士によって組織され、米国会の前でUFOについて証言する用意のある39人のトップの警世家が集まっていた。

THE DISCLOSURE PROJECT

「ディスクロージャー計画」は世界のメディアで広く報道され、これはこの集会のすぐ後で彼らのウェブサイト掲載の記事に明らかである（リンク）。

昨年、その一部始終がついにプロによる映画になった

私はまた、この話を扱った Amardeep Kaleka の、2013年のドキュメンタリー映画『シリウス』（リンク）に出演した。グリアは、私が2001年の説明会に私がいたことを、我々が一緒に出たラジオ番組で確認した（リンク）。

映画『シリウス』のデビューは、Huffington Post 紙の“最高人気リスト”のトップを、数日間占めた——これは少なからず、E Tの死骸と言われるものの写真に、大衆がショックを受けたことによる。

'Sirius,' Steven Greer's Film, Claims To Unveil Tiny 'Alien' Humanoid (VIDEO)

By Lee Spicgel
Posted: 04/07/2013 5:04 am EDT | Updated: 04/08/2013 1:57 pm EDT

Like 20,565 people like this.



7,259 821 175 1,073 3597
GET WEIRD NEWS ALERTS:
Enter email SIGN UP

FOLLOW: UFO News, UFO News, Video, 6 Inch Alien, Dr. Steven Greer, Actor Thomas Jane, Alien Contact, Alien Life, Alternative Energy Technology, Atacama Chile Alien Humanoid, Director Amardeep Kaleka, ET Visitation, Sirius Disclosures, Sirius Documentary, Sirius Movie, Ufo Disclosures, Unidentified Flying Objects, Weird News

An upcoming documentary promises to show an alleged, tiny "alien" being that was found a few years ago in Chile's Atacama Desert. And when we say tiny, we're talking six inches from head to ET too.

MOST POPULAR



WATCH:
Documentarian
Unveils 6-Inch
'Alien' Found In
Chile



Trisha Yearwood
Shows Off 20
Pound Weight
Loss



Man Buys Toy
Poodles,
Discovers
They're GIANT
WEASELS



EXCLUSIVE: Man
Allegedly Behind
Joel Osteen
Hoax Speaks Out



'Teen Mom' Star
Poses In Bikini
After Filming Sex
Tape

私はこの映画の内容を、試写会の後で書いた記事に要約した。「陰謀団」がこの映画の中で生き生きと暴露されている。

この小さなヒューマノイド（人間の仲間）は、明らかに生物学的存在だった。

これについての第一人者 Garry Nolan 博士によるDNAテストの結果、それは人間に似ているが、ほぼ 11 パーセントの、我々との違いがあることが判明した。



サラ・マクレンドンは、多くの秘密があること——そして我々がウソを教えられていることを知っていた。

彼女の政治的力がなかったら、「ディスクロージャー計画」は、ナショナル・プレス・クラブ会議に至ることはなかったかもしれない。

サラに会う

「ディスクロージャー計画」の席で私がサラに会ったとき、彼女は車いすに乗っていた。しかし彼女は相変わらず元気にあふれていた——極端な活力と快活さが見えた。

これは、私が彼女に会う数年前の、クリントン前大統領と一緒に撮った写真である。



マクレンドン・ニュースサービス

サラは、1946年、週2回の「マクレンドン・ニュースサービス」レターを発行した。彼女の2003年の訃報にはこう書かれている――

「マクレンドン・ニュースサービス」の歴史

<http://www.theguardian.com/media/2003/jan/16/pressandpublishing.guardianobituaries>

マクレンドンはテキサス州タイラーで育ち、地方の短期大学を卒業したのち、ミズーリ大学の有名なピューリッツァー・ジャーナリズム校へ進んだ。

彼女は1931年に、テキサス州タイラーとボーモントの、2つの新聞の仕事を始めた。1944年、彼女は「フィラデルフィア・デイリー・ニュース」のワシントン事務所へ移った。

2年後、彼女は連携する小さなテキサスの新聞のために、彼女自身のニュースサービスを始め、自前のワシントン特派員をもてない新聞のために、政治ゴシップや内部情報を満載した、週2回の「ワシントン・ニューズレター」を配信した。

彼女はまた、最盛期には1200のラジオ・ステーションが購読した、ラジオ評論を提供した。

サラは強力な質問をし――それより強力な回答を引き出す

「マクレンドン・ニュースサービス」は、彼女がジョージ・H・W・ブッシュに強烈な質問をした1992年6月のインタビューを載せた――

「万一、人々が“イラク・ゲイト”や“イラン・コントラ”の真実を知ったら、どうするでしょうね？」

おそらく彼女の礼儀正しい、南部流の物腰に一瞬防備を忘れたのであろう、息子ブッシュの今は名高い返答が、恐るべき真理の一瞬を垣間見せた――

「サラ、もしアメリカの民衆が、我々のやったことを知るようなことがあったら、彼らは我々を通りの端に追い詰めて、リンチにかけるだろうね。(リンク)」



Alexander Martin 少佐が 1995 年、このリンチの話をまき散らした

「マクレンドン・ニュースサービス」に書かれたすべてが新聞に載ったわけではない——当然ながら。この言葉は確かに載らなかった。

アレクサンダー・マーティン少佐 (almartinraw.com) は、かつて“イラン・コントラ”公聴会で証言をした人だが、この言葉を、サラのニューズレターで読んだことを公然と発表した (リンク)。

マーティンはこの話を、トム・ヴァレンタインの「フリー・アメリカ」ラジオ番組で、彼が 1995 年 7 月 10 日にゲストに呼ばれたときに、話したのだった (リンク)。

トム・ヴァレンタインは今、Veterans Today サイトに書いている。マーティンはいまだにウェブサイト Al Martin Raw.com を維持している。

リンチする群衆の精神構造は、我々の考え得る最悪のものである

私はこの「リンチする群衆」の精神構造を、強く否定するものである。それは我々のなし

得る最悪のものである。

「陰謀団」の多くは役目が区分されている——つまり、より低いレベルのメンバーは、トップで何が進行しているのかを全く知らない。

これは 2012 年 5 月、前 NSA 勤務の警告家 Jim Stone によって明らかにされた。我々は後に、彼からもっと多くを聞くことになる。

前 NSA 職員の警告家ジム・ストーンが役目区分を語る

<http://www.jimstonefreelance.com/compartmentalization.html>

NSA, CIA, FBIなどを語る時、ほとんどの人が理解していないと私が確信している、ある事がある。

それは、これらの部局には、自分の仕事が本当のところ何に使われているのかを、知ることを許されている者はいない、ということである。

暴政的な政府は、常に彼らに情報を制限することによって、自分たちのために悪事を犯させるのに使うことのできる、正直な人々を求めている。

彼らは、ミッション全体の一つの小さな部分を見ているだけであり、彼らに与えられるその理由は、一人の人間が最初から終わりまで何が起きているのかを知って、これを“敵”に売り渡すことがないように、ということである。

彼らの知識の分野は、この仕事の一つの小さな部分に限られている。この情報の制限は compartmentalization (区分け) と呼ばれている。

「陰謀団」は、彼らより我々の方が強いことを知っている

そこで再び言わねばならないが、何千何万もの人々を「イルミナティ」と決めつけて、即断的・自警団的正義を要求するのは、もう一つの形の集団残虐行為であり、避けなければならない。

私がここでブッシュの「集団リンチ」発言を引用したのは、ひとたび真理が明らかになれば、大衆が彼らより遥かに強いことを「陰謀団」は知っている、と言いたいがためである。

何人かのインサイダーから聞いたところでは、「陰謀団」は、すべてが露見したという最初の徴候があったときに、大挙して逃亡する計画を、ずっと昔から立てているようである。

ジョージ・H・W・ブッシュがあればほど心配していた「イラク・ゲイトの真実」とは、いったい何だろうか？

アル・マーティン少佐はその事実を知っていたのかもしれない——ブッシュ政権が 2003 年に計画していたことは、最初のもの [9.11] よりもっと酷いものだった。

アル・マーティンのショッキングな証言

アル・マーティン少佐は、私が 1990 年代後半から 2000 年代初めに、彼のサイトを積極的に読んでいたとき、大量の質の高い極秘情報を漏らしていた。

2003 年、マーティンの情報源は、「陰謀団」が、イラク国内に、WMD（大量破壊兵器）を——ドナルド・ラムズフェルドがきつとそこに見つかると言ったその場所に——埋め込むために、ある CIA チームを送り込んだことを明らかにしていた。



イラクのWMDに関するブッシュとラムズフェルドの発言

http://www.democraticunderground.com/discuss/duboard.php?az=view_all&address=104x457693

「我々の情報担当官たちの推定しているところでは、サダム・フセインは 500 トンものサリン、マスタード・ガス、それに VX 神経ガスを作れるだけの材料をもっていた。」
——ジョージ・W・ブッシュ、2003 年 1 月 28 日

「我々はその在りかを知っている。それらは、ティクリットとバグダッドの周辺地域にある。」——ドナルド・ラムズフェルド、2003年3月30日

神の介入？

もしこれらの兵器が見つかったら、第三次大戦が中東で始まり、全く異なったタイムラインになっていただろうと十分考えられる。

マーティンの情報源によれば、これら恐ろしい材料を埋め込む任務を帯びた 100 名からなる C I A チームは、味方の射撃による上官殺し (fragging) 事件で殺された。

彼らを襲った兵士たちは、自分たちの使命の十分な意味を知らなかったらしい——あるいは少なくとも、ブリーフィングを受けていなかったと思われる。

WMDを埋めようとしていた C I A 団員は殺された。あるいは、陸軍の兵士たちが計画の別の場所に向かう指令を受けたとき、置き去りにされた。

この C I A チームはまた、2003 年のイラク侵攻の後で、イラクの銀行、博物館、サダムの王宮から、彼らのすべての富を奪うことになっていた。

このストーリーは、2003 年 8 月 13 日、パキスタンの主流メディアである「デイリー・タイムズ・モニター」によって勇敢にも報道されたが (リンク)、他に報道したところはなかった。

The screenshot shows the Daily Times website interface. At the top, there is a search bar with the URL http://www.dailytimes.com.pk/default.asp?page=story_12-8-2003_pg1_1 and a 'Go' button. To the right of the search bar is a calendar navigation showing the month of December 2003, with the number '3' highlighted. Below the search bar, there is a navigation menu with 'Home | Archives | Contact Us | Wednesday, December 03, 2003'. The main content area features a large headline: 'US tried to plant WMDs, failed: whistleblower'. Below the headline, there is a sub-headline 'Daily Times Monitor' and a paragraph of text: 'According to a stunning report posted by a retired Navy Lt Commander and 28-year veteran of the Defense Department (DoD), the Bush administration's assurance about finding weapons of mass destruction in Iraq was based on a Central Intelligence Agency (CIA) plan to "plant" WMDs inside the country. Nelda Rogers, the Pentagon whistleblower, claims the plan failed when the secret mission was mistakenly taken out by "friendly fire", the Environmentalists Against War report.' To the right of the main article, there is a sidebar with several news links: 'Clijsters grabs LA title, takes over No. 1 ranking', 'Lahore to stage first Test against South Africa', 'Haas looks to next year', 'Roddick captures fourth title of season', 'I prefer local over foreign coaches: PHF president', and 'Tendulkar's duty-free Ferrari draws flak in India'. On the left side of the page, there is a 'CONTENTS' menu with links to 'Main News', 'National', 'Briefs', 'Foreign', 'Editorial', 'Business', 'Sport', and 'Infotainment'.

この記事のある部分を読むことにしよう

これは狂気の沙汰に思えるかもしれない——特にあなたが、いまだに政府やメディアのある程度の善意を信じたがっている、消えていく少数者の一人であるならば。

にもかかわらず、2人の高位の軍関係者——Nelda Rogers と Al Martin——が命を賭してこの話をぶちまけた。

アメリカがイラクにWMDを埋め込もうとして失敗した：警告家

https://web.archive.org/web/20031203043243/http://www.dailytimes.com.pk/default.asp?page=story_12-8-2003_pg1_9

退役海軍少佐で28年の国防省勤務歴をもつ人物の、仰天すべきサイト記事によれば、イラクに大量破壊兵器（WMD）が見つかるだろうというブッシュ政府の確信は、この国の内部にWMDを“埋め込む”中央情報局（CIA）の計画に基づいたものだった。

ペンタゴン（国防省）の警告家、ネルダ・ロジャーズは、この計画は、この密命団が“誤射撃”によって誤って無力化されたとき、失敗したと言っている——「戦争に反対する環境団体」報告。

ネルダ・ロジャーズは、国防省で28年の経歴をもつデブリーファ（debriefing ミッション報告の聴取者）である。彼女は自分の安全に不安を感じようになったので、この最近の、CIA-軍部のイラクでの大失敗のストーリーを語ろうと決心した。

Al Martin Raw.com によれば、「ミズ・ロジャーズは、この国防省特別情報室の命令系統のナンバー2である。これは国防省のための中央デブリーフィング室の、10名からなるデブリーフィング・ユニットである。」

ミズ・ロジャーズの報告では、この特別の隠れた作戦チームは、かつての軍の職員で構成されており、「このユニットは隠蔽のために農務省の支払いになっていたが、これはよくあること」だった。

Al Martin Raw.com によれば、「農務省はCIA、DIA、NSAなどのために、支払者としてよく利用されてきた。」

作戦そのものの更なる詳細、およびどのように頓挫したか

この驚嘆すべき記事を更に読み進むと、この隠れた作戦には 100 名の人々が関わっていたが——だれ一人として生き残った者はいないことがわかる。

アメリカがイラクにWMDを埋め込もうとして失敗した：警告家

https://web.archive.org/web/20031203043243/http://www.dailytimes.com.pk/default.asp?page=story_12-8-2003_pg1_9

Al Martin Raw.com のストーリーによれば、ミズ・ロジャーズの報告のもう一つの側面は、サダム・フセインとその家族の財産——現金、金塊、宝石や貴重な骨董品など——を見つけ出す、ある隠れた作戦に関わるものだった。

この問題が明らかになったのは、「イラクでの作戦に 100 名の人員が関わり、そのすべてが、いわゆる「誤射撃」によって明らかに死んでいる」とわかったときだった。

「この作戦の範囲には、イラク中央銀行や、他の大きなバグダッドの商業銀行、イラク国立博物館、それにカネや金塊が秘匿されているある大統領宮殿などへの侵入が含まれていた。」

「彼らは、約 20 億ドルの現金、別にユーロ札で 1 億 5 千万ドル、それに円からポンドに及ぶさまざまな外貨で約 1 億ドルを確認した」とアル・マーティンは報告している。

「これらの人々は、ほとんどがバグダッドの同じ場所で死んだが、それは流れたクルーズ・ミサイルか、方向を間違えたミサイルと爆弾のコンビネーションによると思われる」とマーティンは続ける。

「ここで死んだのは 76 名と考えられ、残りの 24 名は、いろんな「誤射」や「誤確認」によるもので、それがどこであるかは全く分っていない。」

「これはC I A/国防省の作戦の偶発事だったが、現実はこのヘマをやったのはC I A だった」とミズ・ロジャーズは言った・・・

「C I Aの人々がこれを実行することになっていた」とマーティンは続ける。

「彼らは、[盗んだものを]運び出すための特別の“黒い”航空機をもっていた。しかしそれが起こらなかったのは、通常の米陸軍がそこに現れ、予期せぬものを見つけたために、彼ら全員が急発進しなければならなかったからだ。」

イラクのディナール（貨幣）と“平価切り上げ”

ペンタゴン内部の隠れた同盟が、このCIAチームが何をしに出かけたのかを知っていて、より大きな善のために、彼らを無力化する指令を出さざるを得なかったということは、十分考えられる。

このCIA作戦の結果の一つは、ブッシュ・カルテルが、ほとんど価値のないイラクのディナールを大量に手にしたことである。

驚くべき量の、かなりうまく書かれたネット情報があって、人々は、彼らがディナールの価値を増す“平価切り上げ”で、数百万ドルを儲けるだろうと考えている（リンク）。

これでもう10年も、古典的な“火曜-金曜ゲーム”が行われてきた。常に“お金がやってくる”、そして火曜日にやってこなくても、金曜日には跳ね上がる、といった具合に。



私自身の記事もまた、しばしばこのグループによって利用されている。悲しいことに、自分の家を再び抵当に入れて、生涯の蓄えをディナールに注ぎ込んだ人々もいる。

少なくとも3人の信頼できるインサイダーが私に、これはブッシュ・カルテルによる、もともと価値のない紙切れをカネに変え、一方で“知り過ぎた”人々をちゃんと確認しているペテンだと教えてくれた。

このディナール詐欺を暴く、うまく書かれた記事がここにある（リンク）。この陰謀全体の話をさらにおいしいものになっているのは、この暴露記事がマイク・ロスチャイルドによって書かれていることである（リンク）。

これを私に話してくれたインサイダーたちは、勇敢で愛国的な警告家で、「陰謀団」を敗退させるために働いている巨大な同盟の一部だと言っている。

対抗する派閥と、真理と虚構の区別

ロスチャイルド対ブッシュというのは、「陰謀団」の内部での対抗する派閥の間の、最も意味深いインサイダー戦争の一つと言ってよいだろう。

「陰謀団」のすべての者たちが、誰が主導権を握るかについて合意していると考えるのは、大きな間違いである。彼らが合意しているのはただ一つ、秘密主義だけである。

ディナールを支持する者で、本名を使い正体を明らかにしている者はほとんどいない。常に偽名とインターネット名が使われる。

面白いことに、ディナール・グループ内部のインサイダーと称する者も、グローバルな金融リセットについて、かなりの量の真の情報を漏らしている。

ディナールはある程度まで価値が上がるだろう。他の多くの通貨もまた上がるだろう。その全体的な効果はすべての者にとって、大いにポジティブなはずだ。

ここが、話がますます面白くなる——事実とフィクションが選別される——ところである。金融システム変化の背後にある真実については、この研究のもっと後で論ずることにしよう。

私が聞いている噂のあるものが本当だとすると、これは我々が考えているより、はるかにもっと早く起こる可能性がある。

あなたの中のある部分が知っている

第三次大戦を起こす口実として、イラクに偽りのWMDを埋め込むほどに悪魔的なグループの物語は、確かに読んで愉快的なものではない。

ほとんどの人が、「陰謀団」の話を自動的にマユツバとし、それらの「ウソを暴き」、証言する人々の信頼性に欠陥を見つける、といったような習慣をもっている。

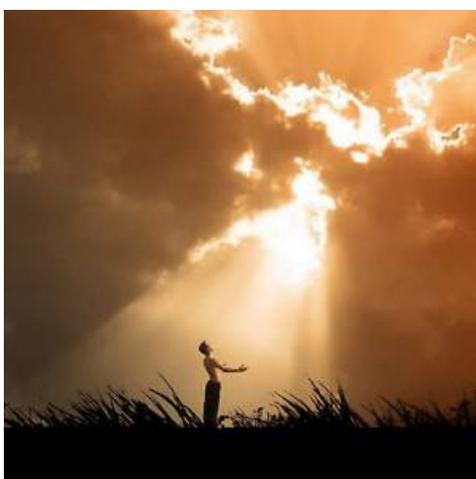
あなたがそうしたければ、それで構わない。あらゆるリンクが存在している。

しかし、ひとつ練習問題として、この考え方全体が真実であると仮定してみよう。この「陰謀団」は現実に存在すると仮定してみよう。

これは、それと一緒に暮らし、あなたの通常の日常生活の中に取り込むには、きわめて、きわめて不安な現実であり得る。

それは、今我々がNSAについて知っていることより、はるかに悪い。

にもかかわらず、もしあなたが、すべてを愛する、より偉大な知性を信ずる 92%の人々の一人であるなら、あなたの内部のある部分が、これがすべて解け去ることを知っている。



無知に乗じて利益を得る

どんな頑固な合理主義者でも、この地球的な敵がこのままやっつけていける方法は、ただ我々が、それが誰で何が起きているかを知らないでいる場合だけである、と結論するだろう。

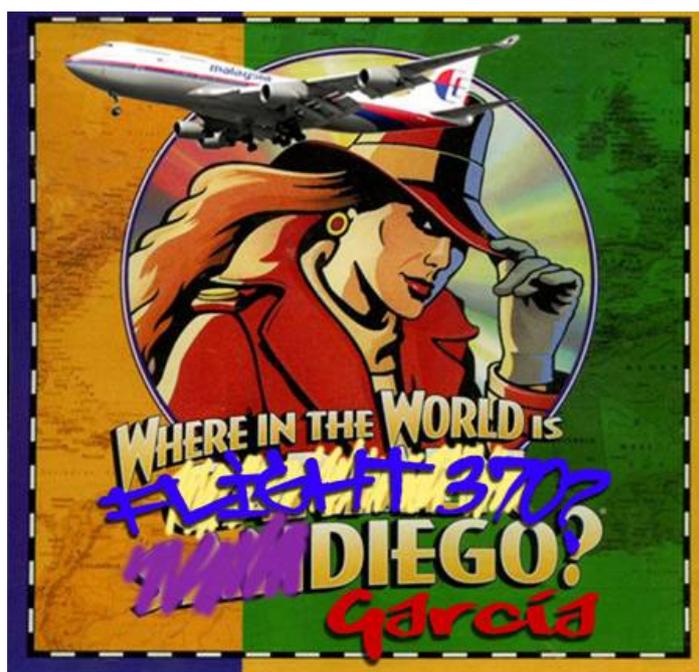
ひとたび我々が、何が起きているのかを見て、理解するならば、決定的な物の見方のシフトが起こり、“悪い連中”が再び我々を害することはできなくなるであろう。

それが起こる時期は、ほとんどの人が考えているより、はるかに近く迫っていると思える。そしてそれは我々の世界を、ほとんど誰も想像さえできないやり方で、変えてしまうであろう。

我々の地球の物語には、ある驚くほどに力のある悪漢がいた。しかしひとたび、決定的な間違いが犯されると、ゲームは終わりになる。戻ることはできない。

370 便機事件は、「陰謀団」の歴史で最大の“しくじり”である可能性が高い。

しかもそれは、何億という人々が今注目している中で起こった。



(370 便機はいったいどこにいるのか？ (悪名高い米/英軍の秘密基地) ディエゴ・ガルシア島か？)

(4の1 ここまで)